

# I-33 コンクリートジャンボーンによる岩隧道の覆工

東京電力 正 飯島延 恵  
 “ 正 岩橋 巨  
 “ 〇 正 坂 普美 夫

新しい建設工法の一つとして隧道工事に掘削ジャンボーン、コンクリートジャンボーン等を本格的に使用したのは我国に於ては年数が浅く、まだ幾多の課題が山積している。当社に於ては小松原ニ発電所の水路隧道にニ水等の掘削工法を採用し、工期の短縮、工事費の節減、導水路の短縮等幾多の成果を納めて来た。工事着工に先立ち予備実験を行い、工期の完成を目途に工事を進めたのであるがこの間工事記録のメジャーに使用し、コンクリートの配合設計については前回（水）の（フライアッシュ使用に関するニ、三の考察……）第13回）今回は下記項目につきその概要を報告したい。

1. スチールフォーム内のコンクリートの上昇
2. ボーリングテストによるコンクリートの均一性について
3. 吹込によるコンクリートの品質の変化
4. 今後の改良について

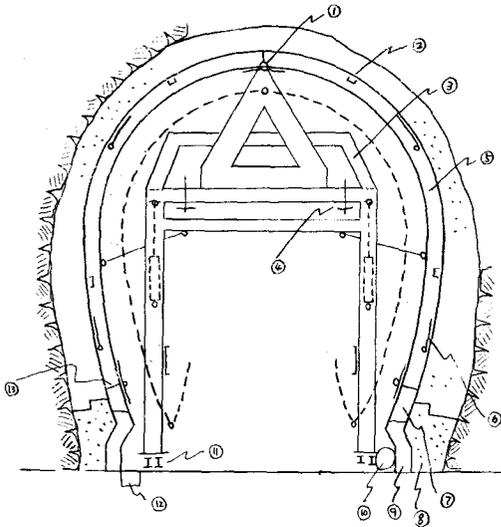


図-1 トラベラー、スチールフォーム

		時 間													
		No. 140													
準 備	型枠移動	1.20													
	ケレン油	0.30													
打 設	掘 付	2.00													
	掃 出														
計	計	4.00													
	打設準備	0.50													
計	打 設	3.30													
	バッチ移動														
計	休 息														
	掃 出	1.00													
計	計	5.00													
合 計		9.00													
			No. 139				No. 140				No. 141				

表-1 サイクル表

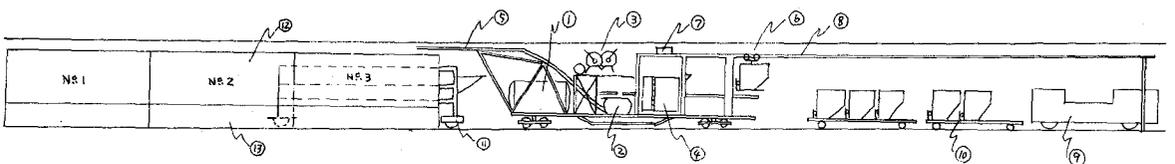


図-2 スチールフォーム、トラベラー、ローラー、バッチ (全長 80m)

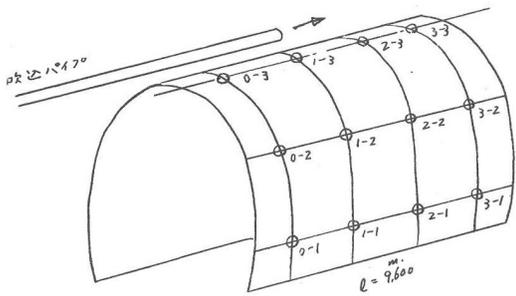


図-3 コア採取位置

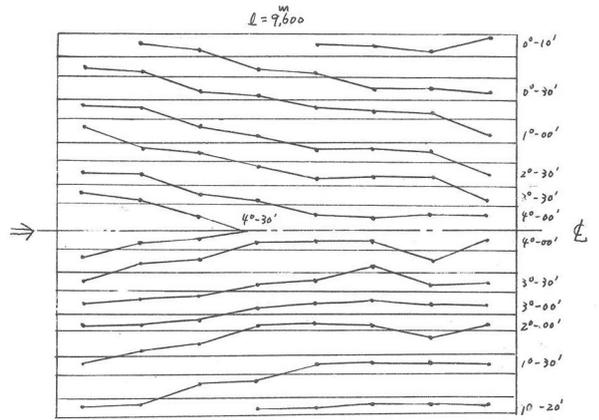
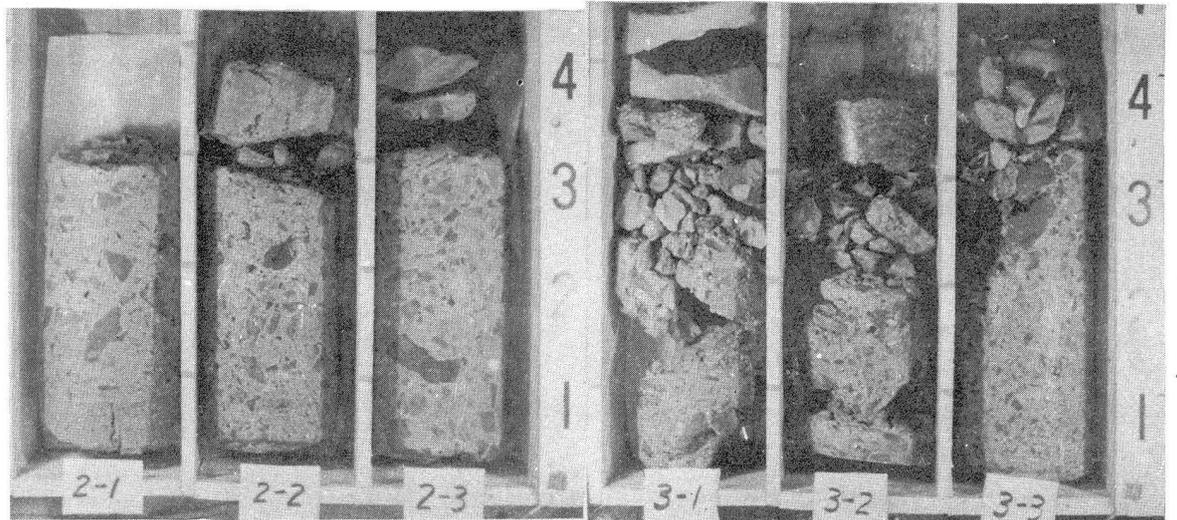
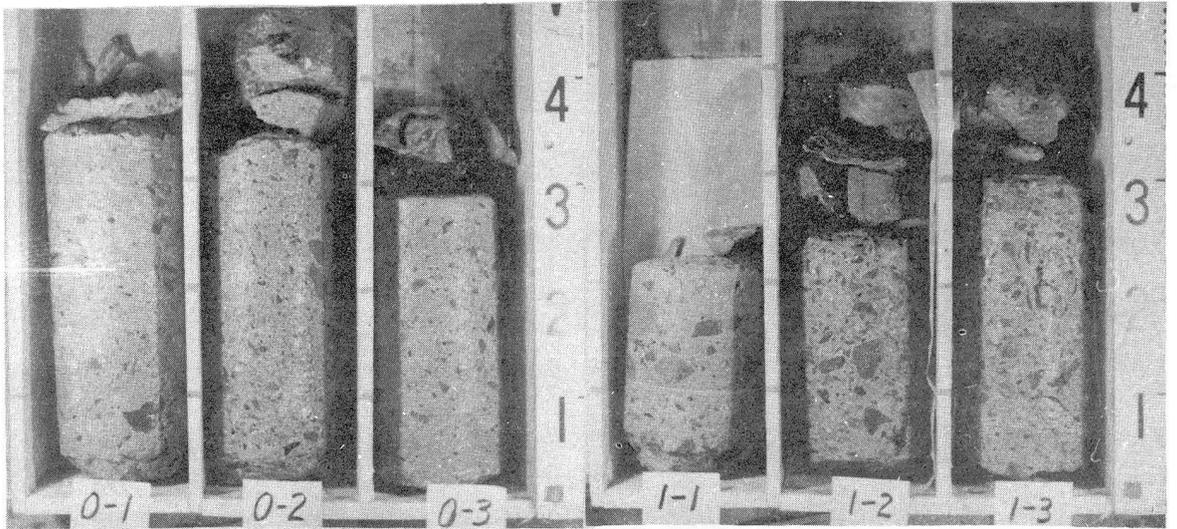


図-4 コンクリート面の上昇



ホーリングコア